

大麦栽培ごよみ

全量1等で売れる大麦の生産を!!



令和7年度
高岡市農業技術者協議会
高岡市農業協同組合
高岡農林振興センター

基本技術の徹底と生育に合わせた管理で収量・品質の向上を目指しましょう!

【目標】 単収 350kg/10a

1等比率	90%以上
整粒比率	80%以上
品質ランクA格付	100%

【栽培のポイント】

- ① 排水対策の徹底(碎土率向上、苗立率・除草効果の向上)
- ② 土づくりの実践と的確な基肥施用
- ③ 計画的な播種(時期に応じた播種量の遵守)
- ④ 除草剤を使用した雑草防除
- ⑤ 赤かび病等の適期防除
- ⑥ 適正な収穫

★大麦は排水対策が重要

- 稲刈り後、すみやかに深さ30cm程度の額縁排水溝を設置する
- サブソイラによる心土破碎で、ほ場の乾きを促進する

★土づくり

pH6~6.5の確保と有機物の施用

資材名	耕起前
苦土石灰	100kg/10a以上
発酵ケイフン	150kg/10a

NEW (R7~)
試し播きで施肥量を
確認しましょう

★基肥(基準施肥量) 地力に応じて加減する

エコ大麦44号 (30-5-9) **45kg/10aを目安に**

★Jコート大麦48号⇒エコ大麦44号に変更
仮比置は同じです。

(追肥) 生育状況に応じて消雪後に追肥を行う場合があります。

※詳細は管理情報等でお知らせします。

★赤かび病防除

	液剤体系	粉剤体系	無人航空機体系
1回目薬剤 穂前期(開花初め)	トップジンM水和剤 1,000倍(150L/10a)	トップジンM粉剤DL (4kg/10a)	トップジンMゾル 8倍(0.8L/10a)
2回目薬剤 1回目の1週間後	シルバキュアフロアブル 2,000倍(150L/10a)	ワークアップ粉剤DL (3kg/10a)	シルバキュアフロアブル 16倍(0.8L/10a)

★雑草防除 ~ガスノエントウ、ガスノグサ等の防除に!~

薬剤名	散布量 (10aあたり)	使用時期
リベレーター フロアブル	60~80ml 希釈水量1000	播種後~麦3葉期 (雑草発生前~イネ科 雑草1葉期まで)
リベレーターG	4~5kg	播種後~麦2葉期 (雑草発生前~イネ科 雑草1葉期まで)

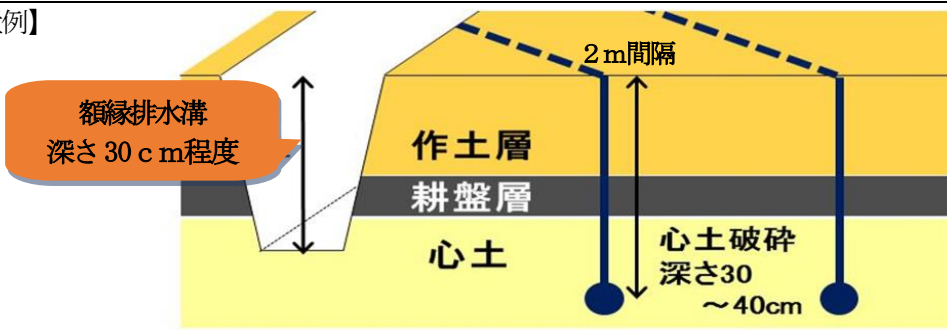
*多量の降雨が予想される場合は使用を避ける

★目標苗立数と播種量の目安(ドリル播)

播種時期	目標苗立数 (本/m ²)	播種量の目安 (kg/10a)
9月6半旬	140	6.0
10月上旬	150	6.5
10月中旬	200	8.5

※千粒重=35g、苗立率=80%として算出

【設置例】



【生育ステージ】

12/1 頃(10月)の目標茎数 600~800本/m²

苗立数 140~200本/m²

穂数 450本/m²

《収量構成要素》
・穂数 450本/m²
・1穂収量 1.04g

《刈取り適期の目安》
出穂後45日(平年)
積算温度(平年)763℃
子実水分30%以下

《収穫適期》
茎葉と子実のほとんどが黄化し、
屈曲した穂の割合が、50%程度に
なった時期

苗立 (3月上旬)
本葉6~7枚
茎立期 (3月上旬)
穂揃期 (4月下旬)
成熟期 (6月上旬)

栽培管理のポイント

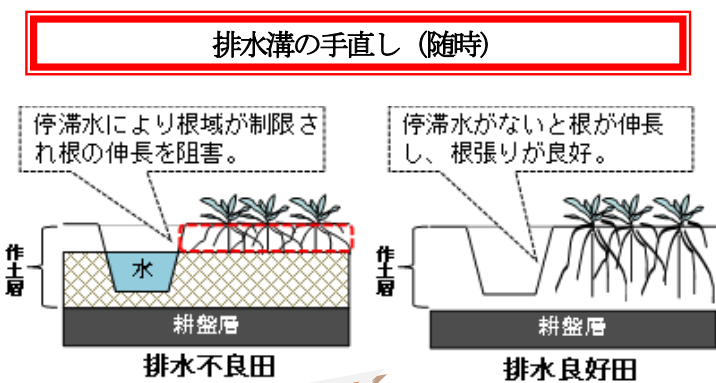
★稲刈り後速やかに額縁排水溝を設置する

- 排水の徹底
- 土壌 pH の矯正
- 耕起前に苦土石灰を10aあたり100kg以上施用して
- 種子消毒
- 種子消毒を徹底し、病害の発生を防止する
- 土壌 pH 6.5 を確保
- サブソイラによる心土破碎と弾丸暗渠の施工
- *スクリーオーガ等による額縁排水溝の設置
- 水稲収穫後、速やかに排水対策を実施する

薬剤消毒法
ベンレートT水和剤20を種子重量の0.5%を粉衣する。
(種子10kgに水200mlを加えて種子を湿らせてから薬剤50g混和する。)

★適正播種量で苗立数を確保する

- 排水溝は、随時手直しをする
- 除草剤の使用 (散播では使用しない)
- 排水溝の手直し(随時)
- 排水不良田
- 排水良好田
- 排水対策の徹底により湿害を確実に回避
- 赤かび病の防除
- 速やかに抜き取る
- カラスノエンドウの種子混入を防ぐため、発生したらなるので適期防除に努める
- 2回目...1回目の1週間後
- 1回目...穂揃期(開花始め)
- 赤かび病の防除
- 清掃を徹底する
- 異種穀粒の混入を防止する為、コンバイン・乾燥施設のなった頃を目安にする
- 刈取り適期は、茎葉が黄化し、子実水分が30%以下
- 収穫・乾燥・調製
- 収穫後の管理
- に耕起するなど害虫の発生源とならないように管理する
- 収穫後に大豆等の作付けを行わない場合は7月上旬まで



排水対策の徹底により湿害を確実に回避

★基本防除と適期刈取りで、高品質表に仕上げる

- 赤かび病の防除
- 速やかに抜き取る
- カラスノエンドウの種子混入を防ぐため、発生したらなるので適期防除に努める
- 2回目...1回目の1週間後
- 1回目...穂揃期(開花始め)
- 赤かび病の防除
- 清掃を徹底する
- 異種穀粒の混入を防止する為、コンバイン・乾燥施設のなった頃を目安にする
- 刈取り適期は、茎葉が黄化し、子実水分が30%以下
- 収穫・乾燥・調製
- 収穫後の管理
- に耕起するなど害虫の発生源とならないように管理する
- 収穫後に大豆等の作付けを行わない場合は7月上旬まで